

静岡県日中友好協議会

No.125

2021.12

NEWS LETTER



視窓

秀麗な中国四大西湖 《惠 州 西 湖》

広東省惠州市にある惠州西湖は湖面上に多数の堤や橋などが造られた人造湖です。北宋時代、杭州西湖の景観形成に貢献した著名な文人・画家、蘇東坡は惠州の地方官になり、在任の3年間に惠州西湖の整備に腕を振りました。惠州西湖は、豊湖・鰐湖・平湖・菱湖・南湖の5つの小さな湖で連なり、それぞれ山と重なり合い、狭長・曲折の湖面形状で、複雑な地形が特徴の景勝地となっています。その後、20世紀90年代に、当地の紅花湖とこの五湖と貫いて一体化し、六湖と呼ばれるようになります。今日の惠州西湖は「六湖九橋十八景」と呼ばれ、国家级景勝地となっています。

現在、惠州西湖風景名勝区は、惠州西湖と紅花湖観光地区から構成され、総面積21.835km²、水域面積3.35km²あり、優雅で奥ゆかしい山水が特徴で、湖の周辺には開元寺、泗州塔、六如亭などの旧跡が多くあり、「蘇東坡記念館」もあります。

蘇東坡は、西湖を詠った詩を多く残し、名句『江月五首』の中で、湖の中心部にある西山の三町に建てられた泗州塔と山水に構成された景観の美しさを「一更山吐月，玉塔臥微瀾。正似西湖上，湧金門外看」と詠んだ、西湖の美しさを讃える詩碑が湖畔にあります。この他に、楊万里、陳堯佐、唐庚などの詩人が惠州西湖を詠った詩を残しています。

特集

『浙江文化観光ウィーク』、静岡市で開催

天涯比隣 相逢有期：

たとえ遠く離れていても、すぐ近くにいるように親しく思われる。また会いましょう

2022年に静岡県と浙江省が友好提携40周年を迎え、アジア競技大会が開催されることから、浙江省文化旅游厅は文化・観光・スポーツなどの交流拡大を目的に、11月24日～28日までの期間、静岡市内で『天涯比隣・相逢有期～浙江で逢いましょう～ 詩画浙江・浙江文化観光ウィーク』（協力：静岡県日中友好協議会等）と題して、展示とPRイベントを行いました。



11月24日～26日 葵タワー1階エントランスホール（静岡市葵区）

展示エリアでは、浙江省の扇子、絹傘などの工芸品、西泠印社会員の彫った「篆刻」作品、「北宋時代の碁石と日中囲碁交流を記す棋譜」などが展示された他、浙江省の杭州市で開催される国際スポーツ祭典・アジア競技大会のマスコット人形やスタジアムの3D模型などが展示され、2022年の盛り上がりに向けて、期待が寄せられました。





11月28日(日)、静岡市内の青葉シンボルロード

開幕式では、浙江省文化旅游厅の褚子育厅長がビデオメッセージを寄せ、静岡県スポーツ・文化観光部の植田基靖部長などが来賓挨拶を行い、続いて関係者が登壇してテープカットが行われました。



来場した市民は、中国の「剪紙」、「篆刻」、「水墨画」、「茶芸」などの実演を見たり、体験したりして、本場・中国の伝統文化を楽しみました。

また、ステージでは、古典茶芸「宋朝茶芸」のパフォーマンスや漢服を纏った女性のファッショショード、揮毫パフォーマンスなどが披露されました。



交流往来 あの日あの時

静岡県－浙江省友好交流の成熟期 2002年

掘った井戸、再構築へ

静岡県と浙江省の交流が始まってから20年の間に、浙江省は飛躍的な経済発展をとげ、経済規模は静岡県を超えて、人口五千万を有するようになっており、静岡県と浙江省の関係も、20年を経てあらゆる分野で変化してきました。代表団を組織して意見交換を行ったり、研修生の相互派遣のほか、市民交流がさまざまな分野で行われたりするようになり、西湖マラソンや少年サッカー交流のように、毎年開催されるようになったものもあります。

一方で、この20年の間では、歴史教科書問題や戦後処理問題など、国家間での問題も多くありましたが、地方自治体や市民の交流の積み重ねによって、交流は続いてきました。浙江省のリーダーも入れ替わり、静岡県と浙江省の交流の歴史を知らないリーダー達も増えていたため、20周年の記念式典では、もう一度交流の原点を双方が再確認できるよう、友好提携した時の状況やその後の交流の話をして、交流の歴史と業績をよく理解してもらい、再構築する機会となりました。

経済交流推進のための窓口を設置

この頃は、日本企業の中国進出が相次ぎ、中国への投資が非常に進んでいました。そこで、静岡県と浙江省の経済交流も活発化させるため、今後常設的に経済交流を推進する支援窓口を設置して、経済交流を両県省でサポートしていくことが合意され、1993年に『静岡県・浙江省経済交流促進機構』が設立されました。これは、静岡県と浙江省の友好関係をベースに、地元の中小企業の進出サポートを対象とする地域密着型の地方版「日中投資促進機構」で、当時はまだ珍しい取り組みでした。

〔主な交流・出来事〕

- 1993年**：8月浙江省人民政府顧問・沈祖倫氏を団長とする浙江省友好訪問団が来静。10月静岡県経済代表団が上海市、浙江省、北京市を訪問。10月28日に、『静岡県・浙江省経済交流促進機構』設立調印式
- 1994年**：静岡県中国駐在員事務所を開設。静岡県、浙江省と共同で、友好交流の拠点となる「静岡浙江友好会館」（杭州花家山荘・桂花樓）を杭州市に共同建設
- 1995年**：蕭山経済開発区（杭州市）内に静岡工業団地開設。清水港～寧波港定期航路開設合意
- 1997年**：静岡県・浙江省友好提携15周年。5月三島市が浙江省麗水市と友好都市提携調印
8月「静岡県青少年友好の翼」事業で、県内の中学・高校生200名を中国へ派遣し、現地の青少年との交流を深めた。11月富士宮市が浙江省紹興市と友好都市提携調印。11月「静岡県企業展示商談会」を杭州で開催。
- 1998年**：小山町・海寧市が友好協定覚書調印
- 2001年**：「静岡県・浙江省観光交流シンポジウム」を静岡県で開催
- 2002年**：静岡県浙江省友好提携20周年。浙江省投資貿易商談会、浙江省観光交流説明会開催



【友好提携20周年記念式典】



【静岡県・浙江省経済交流促進機構設立調印式】

展示会から見える中国ビジネス

ゼロコロナ対策下での 第4回中国国際輸入博



静岡県中国駐在員事務所長 浅原敏治

11月5日（金）～10日（水）、第4回中国国際輸入博覧会が上海市虹橋商務区の国家会展中心で開催されました。127の国と地域から約2,900の企業が参加し、来場者数は約48万人でした。今年10月以降、新型コロナウイルスの市中感染がない上海市でも、強固な“ゼロコロナ”対策が行われました。まず、出展スタッフも含め、来場者は入場する前の48時間以内のPCR検査での陰性証明が必須。私は会期中3回PCR検査を受けました。また、1人でも感染者がいる都市（北京市や浙江省杭州市など）の居住者や感染者がいる時期に訪問歴がある者は、入場不可となりました。なお、10月30日に上海ディズニーランド園内で1人の感染者が生じたため、10月30日、31日に同園を訪れた者も入場不可となりました。



こうして行われた輸入博に、静岡県からは、お茶風味の菓子、調味料、みかんジュースなど中国輸出を狙う10社16種類の商品のほか、既に中国に輸出されている日本酒などが展出されました。コロナ禍のため昨年同様来場者は少ない印象でしたが、試飲、試食しながら商品を確認し、説明員に耳を傾ける来場者の姿が見られました。11月6日と7日には中国で人気の日本人監督、竹内亮さんによるライブコマースも行われ、本県の展示品を紹介した時間帯には、2日間合わせて18万人が視聴し、「おいしそう、でも値段が高そう」などのコメントが発せられました。

また、展示品の詳細な説明のために、日本の出展者とオンラインでつなぐ端末は、昨年は一ヵ所に数台がまとめて設置されていましたが、今年は、各展示ブースの横に1台ずつタブレット端末が設置され、来場者が日本の企業とスムーズにオンラインで話すことができました。渡航が再開され

【竹内亮監督とのライブコマース】
るまで、オンラインの活用は重要になると思います。

輸入博では、日本の商品は品質がよく、安心して食すことができる、という声を多くいただきました。静岡県のお茶やみかんを使った商品が好評です。来場者アンケートで展示品に関心を示す回答をされた企業に改めてアプローチを試みたところ、11月末までに13件の企業から面談希望があり、うち2件は具体的な輸入販売について商談が進んでいます。

来年は上海の隣の浙江省と静岡県との友好提携が40周年を迎えます。上海と浙江省には約8,900万人（統計：第7回人口センサス）が住んでおり、日本に近く、日本への関心が高い方が多い地域です。こうした地域に静岡県の商品が多く輸出され、日本、静岡県の商品を楽しみながら生活する人々が増えることを期待してやみません。



【静岡県ブースに立ち寄る来場者】

寧波の人々－増える「新寧波人」

寧波大学外国語学院外籍教師
静岡県立大学グローバル地域センター客員講師
(静岡県日中友好協議会 交流推進員)

横井香織



今回は、大学卒業後、寧波で生活するシングルの若い世代について、その生活スタイルや価値観を紹介します。

寧波大学をはじめ寧波にある総合大学には、全国から学生が集まっています。彼らは大学卒業後、故郷や上海などの大都市で就職するのが一般的です。ところが最近は、そのまま寧波にとどまる人が増えています。寧波以外の出身で、大学進学をきっかけに故郷を離れて寧波に移り住み、寧波に就職して生活する人々。彼らは「新寧波人」と呼ばれています。なぜ寧波で暮らすのか。それは、住み心地がよい、就職のチャンスが多い、上海より家賃が安い、生活のストレスが小さい、街がきれいで清潔、安全で文化的など、さまざまな理由があるようです。でも実は、寧波には新しく来た人を受け入れる土壌があるのではないか、というのが「元祖寧波人」の考え方です。寧波は、かつて「寧波幫」と呼ばれた商人集団が、発展の基礎を築きました。隋唐の時代から「通商口岸」であった寧波は、海外との接触が多く、海外の生活様式や考え方を受け入れてきました。そういう開放的な寧波人の気質が、若い世代に支持されているのだと思います。

さて、若い世代の一番の関心事は何かというと、それは結婚です。結婚は、唯一の選択肢ではありませんが、シングルでいる人はそれほど多くありません。大部分の若者は、30歳くらいまでには結婚したいと考えています。農村出身の場合は、春節で帰省した時、親や親戚が一斉に「結婚、結婚」とプレッシャーをかけるため、時期は早まります。いざ結婚となると、かつての日本のように、結婚式と披露宴は盛大です。高級ホテルや美しい庭園のある施設、屋外などで、親戚、友人、職場など200人以上の人々を招待して披露宴を行います。中には、隋唐時代の民族衣装である「漢服」で結婚式を挙げる人もいます。若い世代には、伝統文化を復活させたいという動きがあり、「漢服」はその象徴的な存在です。

若い世代のブームは、猫を飼うことです。男女を問わず、シングルでも既婚でも、若者、特に20代は猫が大好きです。寧波には猫カフェが数多くあり、若い女性で満席です。猫カフェに通うだけでは飽き足らず、ネットショップで猫を買い求めて猫と暮らしている人もいます。寧波市内には、ペットショップだけでなく、動物病院もあるので安心して猫と暮らすことができるのです。都市生活を楽しむ「新寧波人」の活力が、寧波の原動力になっているのは間違いないでしょう。



【漢服で結婚式（新婦は寧波大学の卒業生）】



【猫とともに暮らす（寧波大学の卒業生）】

浙江省の非物質文化遺産を巡る旅

平湖派琵琶

中国の琵琶演奏には、無錫派、浦東派、平湖派、上海(汪)派、崇明派の5つの流派があり、平湖派琵琶は、海派（浦東派）と浙江派（平湖派）の2種類に分けられています。平湖派琵琶の特色は、主に右手の「輪指」などの技法です。「輪指」とは、右手の5本の指で順番に弦を弾いていくトレモロ奏法と呼ばれ、基本的に「下出輪」という小指、薬指、中指、人差し指を順に弾き、親指を立てる弾き方を採用し、「上出輪」の弾き方を兼用しています。

平湖派琵琶の音は、クリアで健康的で丸みのある生き生きとした音色で、「宮殿廟堂の清音」と呼ばれています。平湖派琵琶は、今の琵琶芸術各種のスタイル形成に対して、大きな影響を与えています。平湖派琵琶芸術の集大成者は、清代の琵琶大師李芳園で、彼は多くの民間音楽を吸収し、曲と指法を編纂し、組曲を増やし、独自な琵琶理論と演奏体系を形成しました。



平湖派は李其鉉、李芳園、呉夢飛、呉柏君、朱荇青などに代々伝えられ、「南北派十三組大曲琵琶新譜」「怡怡室琵琶譜」「朱英琵琶譜」などが伝えられています。1895年に出版された、『南北派十三套大曲琵琶新譜』(通称『李氏譜』)は、李芳園が整理・編集したものです。これは平湖派琵琶芸術の形成を表しています。『李氏譜』は、以前の琵琶譜と比べてかなり革新的でした。楽譜の中の奏法は多彩で、琵琶演奏の表現力を強めています。例えば、右手の指法は五十八種類にも達しています。「華氏譜」の二十六種類をはるかに超えています。『李氏譜』は、琵琶芸術の伝播と発展に積極的な意義を持っているといえます。中国の民族音楽の絶対曲「春江花月夜」は「李氏譜」の中の「浦陽琵琶」から改編されたものです。

現在、平湖市は平湖派琵琶訓練基地を設立し、平湖派琵琶伝承者を育成しています。2008年には、第二回国家級無形文化遺産リストに登録されました。現在、平湖派琵琶の代表的な人物は、国家级伝承者の朱大楨や嘉興市級伝承者の黎慶慧です。近年、相次いで演奏会が行われ、平湖派琵琶が再び注目されています。さらに今年、浙江省文化観光庁が発表した2021年度「浙江省民間文化芸術の郷」リストに、独特な民間文芸プロジェクトとして、平湖市の平湖派琵琶文化が選ばれました。

非物質文化遺産：中国では「各民族が代々に伝承され、一般庶民の生活と密接に関わっている各種伝統文化の表現形式（例えば民俗活動、演技芸術、伝統知識と技能、及びそれと関連する器具、実物、手作業製品等）と文化空間のことである。」と定義されています。日本の文化財保護法によると、文化財を有形文化財・無形文化財・民俗文化財（有形民俗文化財と無形民俗文化財）・記念物・伝統的建造物群の5つに分類され、中国の「非物質文化遺産」は日本の「無形文化財」と「民俗文化財」の内の「無形民俗文化財」を統合したものに近いといわれています。

ヒストリー・タイムトリップ

中国の四大美女

王昭君



中国では、歴史上、「楊貴妃」、「西施」、「王昭君」、「貂蝉」が四大美女といわれています。王昭君は、紀元前1世紀ごろ、前漢の元帝時代の宮女です。外交上の犠牲として、異国に嫁いだ悲劇的な美女というキャラクター性は大変人気が高く、様々な物語が創作されています。

異民族に嫁ぐ、薄幸の美女

王昭君は、今の湖北省興山県の庶民の家に生まれ、その美しさから、14歳の時に、民間から召し抱えられ、宮女として漢の後宮に入りました。当時の皇帝は、後宮の女性が描かれた肖像画を見て、寵愛の相手を選んでいたため、後宮の女性たちは、肖像画を描く宮廷画家の毛延寿に賄賂を贈り、自分を必要以上に美しく描いてもらっていました。しかし、王昭君は宮廷絵師に賄賂を渡さなかったため、故意に醜く描かれてしまいます。そのため、皇帝が後宮の女性の肖像画を見て召し出す時も選ばれませんでした。

モンゴル高原の遊牧民族「匈奴（きょうど）」の君主・呼韓邪单于（こかんやぜんう）から、漢の朝廷に政略結婚を持ち掛けられ、漢がこの異民族の懷柔策として後宮の女性を嫁がせることになった時、元帝はこの肖像画を見て、醜く描かれていた王昭君を選び、嫁がせることを約束します。ところが、実際に会ってみると、絶世の美女だったため、元帝は後悔するのですが、すでに呼韓邪と約束してしまったため、仕方なく妻として与えることになりました。



「落雁美人」

王昭君が祖国に別れを告げ匈奴へ旅立つ時、琵琶をかき鳴らし、離別を悲しむ曲を奏でると、雁がその哀切な音色を聞き、馬上の王昭君のあまりの美しさに目を奪われて、翼を動かすことも忘れ、地上に落ちてきたという逸話があります。その逸話から、王昭君は別名「落雁美人」と呼ばれています。

匈奴に嫁いだ王昭君は、その後、一男をもうけましたが、呼韓邪单于が早くに死亡したため、当時の匈奴の慣習に従って、義理の息子である復株累若鞮单于の妻になり、二女をもうけたと言われています。しかし、漢では夫の息子と結婚することは、近親相姦に相当する不道徳で汚らわしいものだと思われていたため、王昭君にとっては屈辱的なことでした。俗説では、夫の息子との結婚を虚偽するために、服毒自殺したと言われています。そのため、王昭君の物語は漢王朝と異民族との間で翻弄された薄幸の美女として描かれることが多いようです。王昭君の薄幸ともいえる生涯は、後世に長く語り継がれ、日本にも伝来して『今昔物語集』に「漢前帝后王昭君行胡国語」として取り上げられています。